

## 金融政策 I 期末試験

問題 1. 下記 a) ~ d) の金融緩和政策の名称を指すアルファベットを、ア) ~ オ) の関連用語を指す文字記号と結びつけ時系列順に並べよ。(例) a) -ア) ⇒ b) -イ) ⇒ c) -ウ) ⇒ d) -エ) ⇒ e) -オ)

a) マイナス金利付き量的・質的金融緩和、b) 量的金融緩和、c) ゼロ金利政策、d) 量的・質的金融緩和、e) 長短金利操作付き量的・質的金融緩和、ア) 操作目標：日銀当座預金残高、イ) 指値オペ、ウ) 補完的当座預金制度、エ) 無担保翌日物コール・レート、オ) 操作目標：マネタリー・ベース  
(完全正解のみ 8 点)

問題 2. 次の各文章の傍線部分の内容が正しければ○を、間違っていれば正しい言葉を埋めなさい。

- (1) 資産変換とは、銀行が預金の受け入れと貸出を連鎖的に行うことでお金がふえていくことである。
- (2) マネー・ストックは、日銀だけではなく金融機関全体から経済全体に対して供給される通貨量のことである。
- (3) 潜在成長率とは、「技術水準」、「労働力」、「在庫」という生産活動に必要な 3 つの要素をフルに利用した場合に達成される、仮想上の成長率のことである。
- (4) ファイナンシャル・アクセラレーターにみられるような、外部資金調達プレミアムが関わる金融政策の波及経路をリスク・テイキング・チャネルと呼ぶ。
- (5) 1 年のスポット・レート  $r_1$  が 1.0%、2 年のスポット・レート  $r_2$  が 1.2%、1 年後における 1 年物のフォワード・レート  $f_{1,2}$  は 1.4% である。
- (6) 米国は 2013 年 12 月 に FF レートの誘導目標を 0.25~0.5% に引き上げ、ゼロ金利政策を解除した。
- (7) 福井日銀総裁の下での量的緩和政策の政策変数 (操作目標) は マネタリー・ベース であった。 (2×7=14 点)

**問題3. 括弧の中にあてはまる最も適当な言葉や数値を記入しなさい。**

- (1) ( ① ) 利子率とは ( ② ) の状態で成立する ( ③ ) のことで、中央銀行が誘導すべき③の水準であると考えられる。①利子率がマイナスである場合、③を少なくともマイナスまで引き下げる必要があることになる。サマーズの ( ④ ) 説はこの①利子率が永続的に低下して今後も上昇しない可能性があることを指摘している。
- (2) 通貨供給量 (M) = 現金通貨(C) + ( ① ) 通貨 (D)。マネタリー・ベース (H) = 現金通貨 (C) + 銀行の預金準備 (R) (つまり ( ② ) 預け入れならびに銀行が保有する現金の和)。このように両者は異なっている。両者の関係を数式に表すと、最終的に、通貨供給量 =  $m \times$  マネタリー・ベースとなる。ここで  $m$  は信用 ( ③ ) と呼ばれる。この  $m$  を C, R, D との関係式で表すと、 $\frac{C/D+1}{C/D+R/D}$  となる。 $C/D=10\%$ 、 $R/D=10\%$ 、
- であるとすると、信用③は ( ④ ) になる。信用③の値が高いほど、通貨供給量の伸び率が高くなり、一般的に景気は拡大する。
- (3) 日本銀行は民間金融機関からの ( ① ) を引受け、また民間金融機関に貸出を行うこともある。金融機関同士の金融取引 ( ② ) は、日本銀行の負債勘定にある ( ③ ) 勘定の振替によって行われる。その振替のためのシステムが、( ④ ) である。このことから、日本銀行は銀行の銀行と言われる。
- (4) ( ① ) 曲線は通常、座標の横軸に ( ② )、縦軸に ( ③ ) をとって、両者の値を座標上にプロットして描かれる、右下がりの曲線である。②を低下させようとする③が上昇し、また③を低下させようとする②が上昇してしまう。両方同時に改善させることはできない、こういう状態を ( ④ ) と呼ぶ。
- (5) ( ① ) はその期間によって、( ② ) ①と ( ③ ) ①に二分される。②①は共通担保 ( ④ ) ①や買現先などで、③①は国債などの買い切り、売り切りを行う ( ⑤ ) 取引の買い①、売り①などがあげられる。
- (6) ( ① ) 年2月に日銀は無担保 ( ② ) レート (翌日物) の誘導目標を0.15%に引き下げた。これにより ( ③ ) 政策が始まった。当時の速水日銀総裁は「デフレ懸念の払拭が展望できるようになるまで」、この政策を続けることを約束するなど、( ④ ) 政策の意思を明確にして

いる。しかし、景気回復の見通しが立ったとの判断で、日銀は翌年8月に③を解除し、景気の悪化を招いた。

- (7) 2013年4月に始まった黒田日銀総裁による(①)金融緩和は、政策金利ではなく、(②)を金融政策の(③)とし、物価上昇率が安定的に(④)%で持続するために必要な時点まで金融緩和を継続するというものである。
- (8) **黒田日銀総裁の講演より抜粋(2017年6月8日、於オックスフォード大学)**「その後、2016年1月に、強い逆風に対処するため、(①)政策を導入しました。①政策は、(②)の起点を引き下げ、大規模な国債買入れとあわせて、金利全般により強い下押し圧力を加えることを狙ったものです。さらに、2016年9月には、『(③)金融緩和』導入以降の経済・物価動向および政策効果についての「総括的な検証」を行い、その結果を踏まえて、短期金利に加えて、(④)を操作目標とする『②(⑤)』を導入しました。」
- (2×34=68点)**

**問題4.** 問題3(8)の①政策と問題3(7)①金融緩和政策の矛盾点について簡潔に述べよ。  
**(10点)**